

育友会と生徒との懇談会

「自立」をテーマに意見交換



▲保護者と交流を深める

懇談会の今年の大きなテーマは「今を見つめて未来につなげる〜キーワードは『自立』」。このテーマのもとに「今の自分に足りないもの」「進路の悩み・卒業後の不安」「未来予想図（十年後のわたし）」について、グループに分かれて、生徒と保護者が意見交換を行いました。最初は緊張感で硬い雰囲気でしたが、すぐに和やかになり、活発に話が弾んでいました。懇談会終了後、参加した生徒、保護者の方にインタビュー。生徒からは「いろんな保護者と話す機会はなかなかないので、とても参考になった」「保護者だけでなく、関わりがあまりなかった生徒の話も聞くことができたのっていい時間だったと思います」

七月二十二日（火）に本校しし教室にて「育友会と生徒の懇談会」が実施されました。毎年、恒例のこの会、今回は保護者十一名、生徒二十名が参加しました。

「参考になった」「楽しかった」「参加者の声」

これからの活用が楽しみ
機械科に新しい実習用製作装置

七月三十日、機械科の実習室に「CO2レーザ加工機」「光造形3Dプリンタ」が設置されました。公益財団法人JKAの競輪補助事業の補助を



の紙飛行機。光造形3Dプリンタ（①）はUVレジンのような感じで固めて作るもので通常だと製作

受け、設置された先端機器。炭酸ガスレーザ加工機（①）はCADで書いた図面からの板材の切断や彫刻ができ、これを使用して製作したのが②



宮崎さん

などの答えが返ってきました。また、保護者の方からは「楽しかった」「それぞれにいろいろな意見があるんだなと思った。また参加したい」「いろいろな意見交換ができて参考になった」「息子とはあまり進路のことを話せないけど、他の生徒から聞くことができて参考になった」「子供が親に思うことを聞けて自分のことを見直したい機会になった」「子供たちがいろんなことを考

えていることが分かった」「自分の昔の高校生時代を振り返って考えることができたのでよかった」とどの方からも参加してよかったとの声が聞かれました。

昨年引き続き会の進行役を務められた宮崎真奈美さんは「いい意味で想像を超える懇談会でした。言葉での表現はさ

に二、三日かかるものも2時間程度でできること。機械科ではレーザ加工機を用いて「ものづくりの楽しさを伝える」課題研究班がよく飛ぶ紙飛行機作りに取り組んでいて、オープンスクールや工業展、十一月に諫早市貝津で開催される工場博でワークショップをすることになっているとのこと。また、光造形3Dプリンタは金属製作物の試作造形に使っていきたいとのことでした。

編集後記

▼新聞部として三年連続懇談会に参加。いつもと違う体験ができます。参加してみてください。